

とりくんで

私の実践記録

上野 経一

堺市立三国丘中学校教諭

まえがき

たまたま私が「合唱指導」に特に関心を持つようになったのはたしか昭和十二年の頃だったと思う。それ以来二十有余年合唱とりくんでいる。もっともそれ以前から合唱そのものには興味を感じ、各種のコーラス団体（コーラナニワ、BK唱歌隊等）の一員として盛んに歌ったものである。

昭和十二年の頃と言えば音感教育が盛んな時代で、ちょうどその頃私は大阪市や堺市の女学校で教鞭をとっており、その指導法にいたく共鳴し盛んにその研究と指導に熱中したものである。ご承知の如くその音感教育は和音感教育が重点をなし、それをやっている中にいつとはなしに「合唱教育」に入りこんでいたようである。

合唱指導と申しても、その頃の私の指導法を思い出すと甚だもって幼稚なもので「よくもまあ、あんなことをやっていたものだ」と今更ながら苦笑せざるを得ないものであった。その一例として発声の問題を取り上げてみると「歌は楽しくノビノビと歌わせねばならない」と云うので大声で歌わせたり、しばらくして、「弱声発声法」と云うものが流行すると早速それを真似て極端な弱声で歌唱させるなど、又指揮にしても、僅か三、四十名程度の生徒の合唱指揮にあたり恰もオーケストラでも指揮するようなオーバー

なモーションをしたりして、今から考えると全く恥しい事ばかりであった。と申しても決して現在すぐれた指導をしているということではない。

三国丘中学校コーラス部の歩み

私が本校に赴任したのは二十六年四月翌二十七年四月に三年女生徒のみによるコーラス部を創設した。

本校コーラス部の歩みをご紹介する前に本校について少し述べてみたい。

この三国丘中学校は戦前音感教育のさかんであった堺市のほぼ中央の高台にあつて、三方畠に囲まれ、春夏秋冬一年を通じて青々と茂った樹木に覆われた仁徳御陵や反正天皇御陵を極く近くに望み、空気は清浄、勉学にはいたって恵まれた閑静な地に建てられている。

生徒数は三十五年度は約二五〇〇名を数え、世間からは進学の学校と噂され、毎年卒業生の九〇パーセントが高校進学希望者である。従つて知的面的学習はなかなか旺盛であるが反面芸能科方面はいつだって低調で、と申すよりむしろ無視された状態であった。音楽教室等も極言すれば「物置」同然で、普通教室で使い古された壊れかかった机椅子、キャンドル立て付、七十五鍵の世紀物のコッテージ型ピアノと小型オルガン一台、他に楽器と申せば古びた木琴四、五台位のものであった。もっとも逐次設備も整えられつつはあるが、これとて他校に較ぶれば真



にお粗末なもので皆様方がご覧下されば「なるほど」とおわかり願えると思う程貧弱なものである。

さて、このような状態にある本校に私が赴任したのが前記の如く二十六年四月である。

そこで私は「クラブ活動で合唱を盛んにし、このクラブ活動を通じて全校の音楽熱昂揚につとめたい」との意欲から翌二十七年四月に三年女生徒のみによるコーラス部を創設したのである。

二十八年度は二、三年女生徒によったコーラス、二十九年年度から一年を加え三十九年度まで女生徒のみのコーラス部であった。何故に女生合唱を続けたかという点、私は二十一年から、二十六年に現在の学校に赴任するまでの五ヶ年間公立高校にいた外は全部女学校であった関係上女生徒の取扱いや指導にも慣れ女生合唱の良さを充分識っていたからであった。更に三十一年九月頃から男生徒を加えたコーラス部に切り替えたのである。

本校は創設当時は音楽の優秀者をピックアップし半強制的に部員として（これは全員ではなく、一部の者であるが）練習を行っていたのであるが、いろいろと父兄や担任からの苦情等も出て、ある時など職員会議の席上、一教師から「勉強の邪魔になるから音楽部を解散せよ」等との抗議が持ち出され、暴力否定の世の中において私とその教師との間に取り組みが演じられようとし、同僚のなだめ

で事なきを得た事などもあった。それ以外にも不快な数々のことなどもあって一度「解散」に踏み切ったのであるが、生徒達からの再三の要望もあって三十一年九月頃からこれを機に混声に切り替え、全面的に募集制として新発足をしたのである。

現在の部員数は計一〇五名で、内訳は新二年男二十名、女四十五名、新三年男十四名、女二十六名である。

コンクール参加成績

次に諸コンクール参加成績を簡単に紹介させて頂きたいと思う。

コーラス部創設三年目の二十九年にN



HK全国唱歌ラジオコンクール大阪府大会に大阪第二位を初入賞とし、三十年度以降三十四年度迄連続五ヶ年大阪府代表として近畿大会に臨み、三十一年度を除き（この年は近畿第二位）四年間近畿代表として全国大会に出場、その間三十二年度に女生で全国第二位、三十三年度は混声で優良校に選ばれ、又一方全日本学生音楽コンクールでは二十九年度三十年度は西日本第二位、三十一年度全日本第二位、三十二年度より三ヶ年連続全日本第一位を獲得、その他大阪府下コンクールにおいて四年連続優勝（その後不参加）や毎日放送とラジオ東京共催の「子供音楽コンクール」に三十二年度三十三年度に連続二年優勝し、文部大臣奨励賞状を受けた。

部員のあり方について

前記の如く部員は募集制であるが、入部の条件として
 (一) 毎日の練習には必ず出席すること
 (二) 一度入部したら三年生の十一月末迄は辞めない

との条件を本人は勿論保護者も承諾の上で入部を許可している。従って部員はみな心から音楽愛好者の集りであるが、必ずしも全員が音楽に優れた者とは言えない。実にひどい者もいる。出席も大体において良好であるがやはり二割程度の不真面目な部員がある。

部員の心掛けとしてまず「技術的に歌

文部省教育用品審査合格

クラリネット製作30年
 最高の技術を誇る

内生クラリネット
うちう

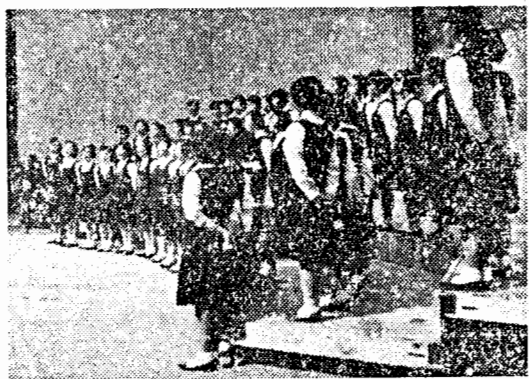


新しいカタログができました。
 御希望の方に郵送いたします。

内生楽器製作所

埼玉県戸田町下戸田河岸(電話ワラビ3142)

マークが保証する
 教育用クラリネット



を加えたいと思う。

練習は一日一回必ず行なう

如何なることがあっても(但しテスト期間中などは別)一日に一回は必ず実施する。万一指導者が指導できぬ場合は生徒達自身で行なう。練習時間は建前として毎日始業前三十分と昼休みの時間とを隔日交代で行なう。必要に応じて一日二回なすこともある。放課後の練習は原則として行なわない。というのは放課後にはいろいろな行事があるのでできるだけそれに参加させたいためである。

一日一回ということは、規則正しい習慣を自づと身につけることにもなり一部の父兄からも喜ばれている。

出欠を明確にする

その日の出欠は各パートのリーダーによって正確に出席簿に記入され、止むを得ずして練習に出席できない場合はその理由を指導者に必ず申し出ることにして

いる。

音楽鑑賞は各自家庭において適宜行なう
如何に学校で基礎訓練や合唱練習を行なっても各自に音楽のセンスがなくては立派なコーラスはできない。その意味において鑑賞は非常に重要なことである。

学校では鑑賞の時間を多く持たないので

各自家庭にあってラジオ、テレビその他レコードや各種の音楽会等で各自適宜鑑賞を行ない、その感想等を鑑賞日誌に記入し、一ヵ月に一回必ず提出させるようにしている。

では次に私がこれまで実施してきた指導法の概要をごく簡単に記し、皆様方のご批判を仰ぎたいと思う。

基礎訓練をガツチリと

基礎訓練と云っても発声、和音、音程リズム等種々あるのであるが、私はまず和音訓練から(各自が自分のもつとも歌いやすい強さで歌わせる)始める。理由は合唱もいくつかの音が集まってできる音楽であるからである。用いる和音は勿論ハ長調の主要三和音(転回和音を含む)と属七の抽出、分散、三声唱(同声の場合)四声唱(混声の場合)と三つのカデンツの練習を行なう。私はハ長調の三つのカデンツがある程度強さは *mp* で)

歌えるようになるまで発声の指導には移らぬようにしている。この程度の訓練は小学校でなされているはずであるが、歌わせてみるとなかなか歌えない。次にはこれ等のカデンツにアクセントを応用して二拍子、三拍子、四拍子の練習、更に

以上のことを応用した簡単な三部曲を、佐々木幸徳氏編等を使用して合唱の入門として

している。

発声練習は三つのハ長調のカデンツができるようになった頃から始める。

発声練習にはまず呼吸法がつきものである。余り専門的にならぬ程度に、簡単に呼吸法を指導し(勿論次第に強化していく)、母音の練習に移る。母音練習と云

っても直ちに A I U E O を始めるのであるが、まずハミングと日本語の「ン」の練習で「共鳴をもった巾のある声」を訓練したいと努力している。母音の練習は O U I E A の順序で始め、個々の母音の正しい練習と相俟って子音は勿論、*p mp mf* を配してアタックの練習に重点をおいて練習している。このアタックの練習には

スタカートで次の楽譜を併用して行なっているが甚だ効果的である。



低音の練習としては次の

練習曲は多からずガツチリと

私は練習曲は少なめに選び、あらゆる面からの練習をガツチリとやる方針をとっている。私は年間を通じ平均混声曲十一、二曲、女声曲六曲程度のものを取扱っている程度である。

練習には必ず出席のこと

一つの団体、グループが向上発展するか否かはそれを構成する部員の出席如何が大いに影響すると思うのである。出席の良い団体はその事自体によって既に半ば成功していると言っても決して過言ではあるまい。故に私は「如何にして部員の出席を良くし、それが永続できるか」

を凡ゆる手段を講じ懸命に努力してきた指導者はたゆまざる研究と熱意をもって指導にあたる

練習の仕方について

が上手になるばかりが目的でない。我々はお互に社会の一員であるから歌が上達すればする程人間もそれに比例して立派な人間にならなければならない。立派な人間と言っても限りはないが、少なくとも人に迷惑をかけない人間になることを忘れてはならない」と云うことと「人の和と云うことを常に考えて部員一同一家族同様仲良くして貰いたい」ことを常に要望している。

次に本校コーラス部の練習法を臆面も

なく述べさせて頂くことにする。実際の練習事項に入る前に練習に大切な一、二の項目をあげ、それについて簡単に説明

周囲の深い理解と温かい協力声援が欲しい

この件については皆様方もいろいろと苦い御経験がおありと思う。私の場合全く淋しい思い出の連続である。

コンクール出演に際しどなたか温かい心のごもった激励の辞をおくって下さるなり、できればお一人でも結構、会場に向向いて生徒の懸命な演奏に拍手を送って頂くでもしたら、生徒達もどんなにか嬉しく思うことであろう。大阪府代表、

近畿代表、全国大会入賞等の報告を兼ねた挨拶を職員朝礼の際に申し述べても僅か二、三の同僚から拍手を貰う位でコーラス部の活躍に関しては何等の反応も示されないのである。最近もつとひどいこともあったのであるが、自分の学校の生徒達が、自分の担任の生徒が日夜懸命に練習に励んだかいあって栄えある日本の、しかも三年連続優勝と云う輝かしい成績をかち得たというのに「その代表者である指導者の挨拶に対し、その労を擧げての意志表示の拍手」もなし得ないものかと全く淋しい気持ちに打たれたことも幾度か（個人的には深い理解を持って蔭ながらのご協力、声援を送って貰っている同僚、父兄の方も二、三ないことはないが）又PTAにおいても、将来を励ます意味においても簡単な茶話会なり、それが無理であるなら代表の方から一言

でも結構、部員にお賞めの言葉を送って貰ったら部員達もどんなにか感激発憤す

ることであるう、と思つてみたこともあつた。これは私の余りに甘い身勝手な考えであるうか。

もう一つ遺憾に思うことは、私の周辺の人々に「あれだけ練習をやっているのだから入賞否近畿代表や全国第一位は当然だ」と思い込んでおられる方が余りに多いことである。

成程私達も少しでもよいコーラスができることを目指し、精一杯の努力を払って練習に励んでいるのであるが、何も私の学校のみが猛練習を続けているのではない。ブロックだけのコンクールに入賞することさえ困難であるのに、まして府代表、近畿代表、況んや全国一位等そう簡単に獲得できるものではない。

私のコンクール参加の目的は只優劣を競うばかりのものではない。

コンクール参加ともなれば、どの学校も一年間否多年に亘つての努力の結晶ともいうべき各学校それぞれ特徴のある立派なコーラスを発表されるのであるから、その立派なコーラスを聴かせて貰える楽しさもあり、従つて参加した部員はそれ等の優れたコーラスをたびたび聴くことによって、啓蒙され且つ優れたコーラスができる結果ともなる。それがひいては甚だ低調にある我が校の音楽熱を盛んにするゆえんともなると思つてのことである。

むすび

あれこれいっているうちに三十五年度を迎えることになったのであるが、本年度は全国的に「あふれっ子」の入学でこの学校でも教室不足が悩みの種のようにある。

私の学校でも一三〇〇名程度の新生を迎えるようであるが、そのため一つあつた音楽教室も普通教室となり、音楽は各教室にベヒーオルガンを持ち運んでの授業をしなければならぬようだ。

従つてせっかく苦勞して育ててきたコーラス部の練習も本年度は思うようにできないのではないかと懸念される。

しかし「窮すれば通ず」で、本校には幸い女房役としての伴奏者山根千代先生縁の下の力持ちの児玉純子先生が熱心にご協力下さっているのので、何としてでも従前通りの練習に励み、少しでもより良いコーラスができるよう、精一杯の努力をかたむけたいと思う次第である。

系統的実習
音楽科の総復習 堀川俊助著 B5判 八〇頁 七〇〇円

高校受験のための補習テキストについて従来の類書をあらゆる角度から検討し、系統の実習を加味しながら最も能率的学習ができるよう作られた最適書。
わかりやすい
音楽の基礎知識 堀内秀治著 A5判 六四頁 四四〇円

音楽教育に活動的な著者が長年の体験に基づいて従来の類書と異なり中学生に必要な理論だけに限り最もわかりやすかついた適書。
中学生のための
音楽鑑賞ノート 国立音楽大学教授 堀内秀治著 本間 雅成序 夫 著 B5判 三四頁 三〇〇円

鑑賞指導を特に研究された著者が、その成果を結実したもので、一学年の必修鑑賞曲目についてワークブック方式で、要素分析による解説と問題を与えた。
新しい体系による
視 練 習 本間雅夫著 B5判 一六頁 一五〇円

従来の読譜練習の困難性を検討して俊秀の著者が長年研究の末中学生に必要な読譜力の養成に最も効果的であるよう自信をもって作られた低廉の良書である。

株式会社 正進社

東京都千代田区四番町七
TEL 〇五八六一九番
振替東京一三四二三三